



「いのちと自然を守り育てること」

わたしたちの変わらぬテーマです。

第62期 事業報告書

平成21年11月1日～平成22年10月31日

 **クミアイ化学工業株式会社**

KUMIAI CHEMICAL INDUSTRY REPORT

証券コード 4996

安心・安全で、 より優れた農薬の実現に向けて 常に革新的な研究開発を推進中。

当社の設立は、今を遡ること60年前の昭和24年（1949年）。国産初の農薬開発に挑戦し、設立から10年後に殺菌剤「アソジン」の開発・製品化に成功。以来、農薬開発のパイオニアとして業界をリードし、国内および海外の農業生産に寄与し続けてきました。これまでの事業拡大と企業成長を支えてきた源泉は、独創的かつ先駆的なアプローチによって技術革新を果たしてきた研究開発体制にあります。当社は、生物科学研究所および製剤技術研究所の自社施設2ヵ所に加えて、各地に圃場を擁し、グループ企業であるイハラケミカル工業株式会社および株式会社ケイ・アイ研究所との連携を通じて、新規化合物の合成から生物評価、製剤、安全性評価、そしてプロセス開発に至るまでの高いハードルをクリアし、安全で効果的な農薬を次々に生み出しています。

農薬開発のステップ

合 成

生物評価

製 剤

安全性評価

プロセス開発

開発成果
製 品 化

水稲用除草剤 「ピリミスルファン剤」

新規成分「ピリミスルファン」含有で今年より10製剤を上市。各剤とも有効成分数、含有量が極めて少なく、低環境負荷な薬剤。



園芸用殺虫剤 「コルト」

昆虫の行動を制御（IBR）するという新作用で害虫を防除する新剤。天敵・有用昆虫に影響が少なく、既存薬剤抵抗性の害虫にも有効。



微生物農薬 「エコシリーズ」

生きている微生物を有効成分とした農薬。人畜・環境に優しい安全な天然物素材で、水稲用、園芸用あわせて5剤が上市。



微生物農薬と化学農薬のハイブリッド 「クリーンシリーズ」

微生物農薬と化学農薬の特徴を融合させた「ハイブリッド農薬」。園芸用として2剤が上市。



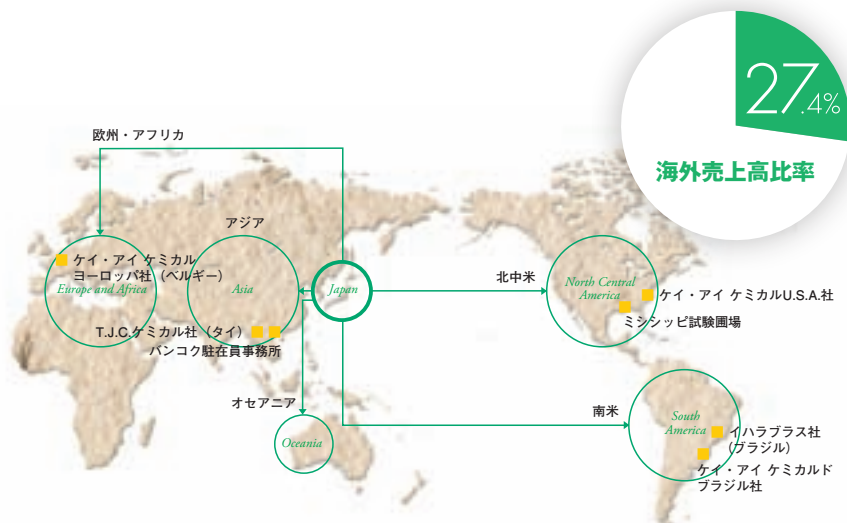
ドリフト軽減散布剤 「微粒剤F」

DL粉剤にかわる、ドリフトを抑え、周辺作物への飛散を軽減した剤型。水稲病害虫本田防除剤として3剤が上市。



世界人口69億の「食」を支えるために農業生産のサポート。 普及推進活動を強化し、さらにグローバルにも展開。

当社製品の国内販売は、農協（JA）の全国組織である全国農業協同組合連合会（JA全農）を通じて行われます。地域密着型の販売活動を基盤に、エンドユーザーである農家の方々からいただく声を、研究開発や製品ラインナップに活かしています。また、国外部およびグループ企業（米国、ベルギー、タイ、ブラジル）を通じて、50カ国を超える世界各国の農業地帯に製品をお届けしています。現在、海外売上高の割合は27.4%（平成22年10月期）。今後もグローバル展開をさらに推進し、この割合を拡大してまいります。



直播水稲用除草剤 「ノミニー」

中南米、東南アジア、米国、欧州、アフリカ諸国など、世界約50カ国において登録を取得し、販売されている人気製品。



棉用除草剤 「ステイブル」

生育期に散布しても棉に安全性が高く、難防除雑草防除に無くてはならない特徴のある除草剤として、主に米国・ブラジルで広く使用。販売量増加中。



植物成長調整剤「KIM-112」

麦の倒伏防止用途に欧州「メダックス」、りんご樹の新梢伸長抑制による剪定作業軽減用途で欧州「レガリス」・米国「アボジー」・韓国「ビビフル」等広い用途で使用。

園芸用殺菌剤「フルピカ」

ブドウやイチゴ、花卉用の灰色かび防除用に欧州で使用。さらに対象作物や販売国（南米・中近東等）拡大を目指す。

園芸用殺菌剤「KIF-230」

ジャガイモ・トマトの疫病、ブドウのべと病に卓効な新成分として混合剤の「バルボン」「ピンケア」「ピンテージ」（欧州）、「コンプレット」（ブラジル）、「マンチョン」（韓国）等で使用。

現地共同出資会社概要

イハラプラス社

ブラジルにおいて当社が共同出資している現地会社。農業の開発・製造・販売を行う。



T.J.C.ケミカル社

タイにおいて当社が共同出資している現地会社。農業の開発・製造・販売を行う。



逆風に負けない合理化努力で大幅増益を達成 新剤開発やグローバル展開にも注力します。



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
また、平素は格別のご支援、ご愛顧を賜り誠にありがたく厚く
お礼申し上げます。

この度、第62回定時株主総会におきまして、私、石原英助が
代表取締役社長に就任いたしました。

当社、第62期（平成21年11月1日から平成22年10月31日
まで）の決算を終了いたしましたので、ここに事業活動の概況を
ご報告申し上げます。

今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しく
お願い申し上げます。

平成23年1月

代表取締役社長 **石原英助**

■ 当期のポイント

合理化効果で大幅増益

連結売上高は前期比マイナスとなったものの、徹底した合理化努力が実を結び、
営業利益は大幅な増加となりました。

化学品事業は微減収

主力の化学品事業は、海外市場では健闘したものの、国内需要低迷の影響を受け、
売上高は前期比でわずかにマイナスとなりました。

当期純利益は5倍増

営業利益の増加分に加え、営業外収益、特別利益の増加などによって、当期純利
益は前期の約5倍に増えました。

世界経済が大きな変革期を迎える中、当社は技術に秀でた農業専門メーカーとして、グローバル競争に勝ち抜ける企業体質の構築を急いでまいりました。当連結会計年度の経営成績と今後の事業展開について、代表取締役社長の石原英助がご説明いたします。

当期の経営成績

当連結会計年度の経営成績は、厳しい事業環境を受けて売上高は382億5千2百万円（前連結会計年度比2.5%減）とわずかに落ち込んだものの、製造・販売・間接部門それぞれの合理化努力が実を結び、利益水準は大幅に改善するという結果になりました。国内では農業需要の低迷や価格競争の激化、国外では急速な円高の進行という逆風を受けながらも、自社開発剤の販売に注力して売上高の落ち込みを最小限に食い止めるとともに、売上原価の低減や販売費及び一般管理費の効率的運用を図ったことで、営業利益は9億9千万円と、前連結会計年度比48.5%の大幅増を確保できました。

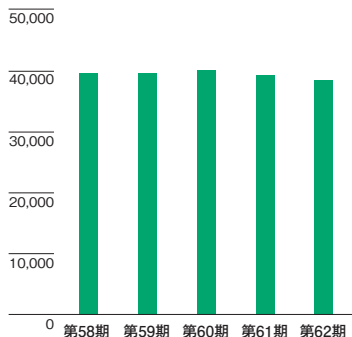
経営成績をセグメント別に見ますと、主力の「化学品事業」の売上高は、前連結会計年度比3.0%減の349億4千9百万円となりました。国内市場では、主力の水稲用除草剤「トップ

ガン剤」や水稲用箱処理剤の「ビーム剤」「ブイゲット剤」、園芸用殺菌剤「プロポーズ剤」などの重点販売品目を中心に積極的な推進活動を図りました。主力である水稲用除草剤の販売量が減少したこと、さらに流通段階における在庫調整や長引いた猛暑による作物の生育不良により農業の使用が手控えられたことなどが影響し、国内販売は前連結会計年度を下回りましたが、営業利益は先ほど述べた合理化努力によって大きく増加しています。一方、海外市場では、直播水稲用除草剤「ノミニー」がインドをはじめとしたアジアで大きく伸張したほか、棉用除草剤「ステイプル」が米国やブラジルで好調で、国外販売は前連結会計年度を上回りました。

他のセグメントについては、「賃貸事業」の売上高は前連結会計年度比1.5%増の2億1千4百万円、「その他の事業」の売上高は前連結会計年度比4.0%増の30億8千9百万円となりました。

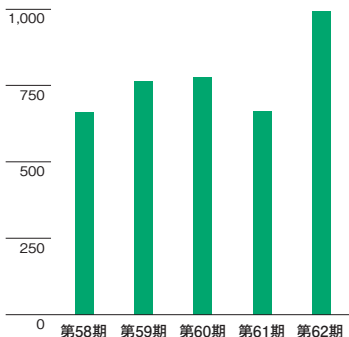
売上高

(単位:百万円)



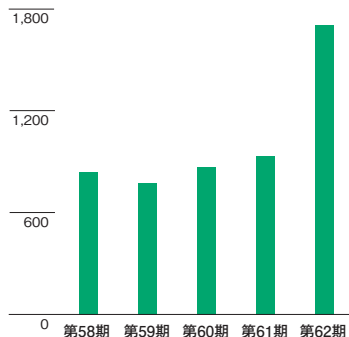
営業利益

(単位:百万円)



経常利益

(単位:百万円)



今後の事業展開

化学品事業では、新たに登録を取得した水稻用除草剤「ピリミスルファン剤」、水稻用箱処理剤「イソチアニル剤」、園芸用殺虫剤「コルト」などの販売拡大に注力するとともに、販売力のさらなる強化、海外ネットワークの強化・拡充などに努めます。国内部門では、有望な新規剤の育成・拡販を積極的に推進するとともに、「トップガン剤」をはじめとした既存の重点品目の維持・拡大を図ります。特販部門では、非農耕地分野の製品や自社原体の拡販に努めるとともに、受託製造の獲得・拡大に取り組みます。一方、国外部門では、主力製品である「ノミニー」のアジア地域を中心とした拡販、「ステイプル」の米国・ブラジルでの拡販に努めます。また、海外拠点との連携を強化し、グローバル展開を一層加速していく方針です。

他のセグメントにおいては、賃貸事業では遊休資産の有効活用を継続的に進めます。その他の事業については、流通事業では、新規分野への展開など積極的な営業活動を進めることによって事業の拡大を図り、印刷事業では、他社との差別化を図るなど特長を活かした販売活動を強化し、売上と利益の確保に努めます。

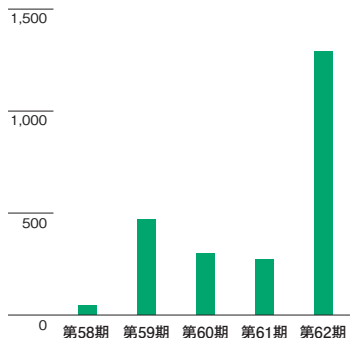
生産活動については、引き続き製造原価の圧縮に努めるとともに、新規開発品や「アルミ自立袋包装」などの新包装形態の生産対応を図ります。一方、研究開発に関しては、国内で登録申請中の園芸用殺菌剤「ファンタジスタ」「ファンベル」や、米国・オーストラリア・カナダの3ヵ国で登録申請中の畑作用除草剤「KIH-485（ピロキサスルホン）剤」の早期の登録と商品化を進めるとともに、これらに続く付加価値の高い新農薬の早期製品化に努めます。このほか微粒剤Fやクリーンシリーズなど、自社独自技術を活用した環境負荷低減型農薬の開発にも引き続き取り組みます。

株主の皆様へ

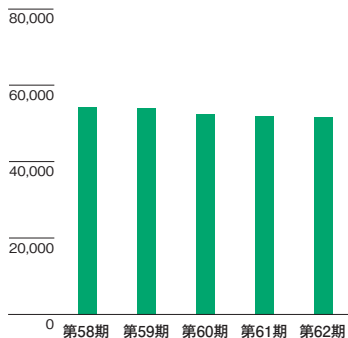
当社は、企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保の充実などを総合的に勘案しつつ、安定した配当を継続して行うことを、株主の皆様への利益還元の基本方針としております。この方針に基づき、当期の期末配当は1株当たり3円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

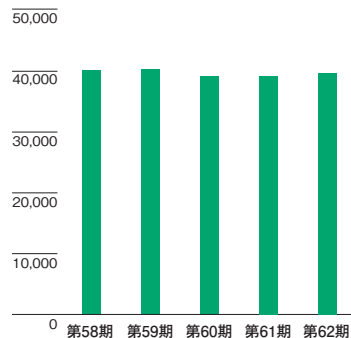
■ 当期純利益 (単位:百万円)



■ 総資産 (単位:百万円)



■ 純資産 (単位:百万円)



■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第62期(当期) 平成22年10月31日現在	第61期(前期) 平成21年10月31日現在
資産の部		
流動資産	28,566	28,327
固定資産	23,138	23,683
有形固定資産	11,280	11,439
無形固定資産	247	213
投資その他の資産	11,611	12,031
資産合計	51,704	52,010
負債の部		
流動負債	8,768	9,309
固定負債	3,410	3,672
負債合計	12,179	12,982
純資産の部		
株主資本	36,797	35,753
資本金	4,534	4,534
資本剰余金	4,833	4,833
利益剰余金	28,656	27,606
自己株式	△1,226	△1,221
評価・換算差額等	791	1,331
その他有価証券評価差額金	1,166	1,693
為替換算調整勘定	△374	△362
少数株主持分	1,937	1,945
純資産合計	39,525	39,029
負債及び純資産合計	51,704	52,010

■ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	第62期(当期) 平成21年11月 1日から 平成22年10月31日まで	第61期(前期) 平成20年11月 1日から 平成21年10月31日まで
売上高	38,252	39,227
売上原価	28,955	30,048
売上総利益	9,297	9,179
販売費及び一般管理費	8,307	8,512
営業利益	990	667
営業外収益	813	512
営業外費用	97	246
経常利益	1,706	933
特別利益	432	145
特別損失	106	574
税金等調整前当期純利益	2,033	505
法人税、住民税及び事業税	491	174
法人税等調整額	170	13
少数株主利益	80	46
当期純利益	1,292	272

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第62期(当期) 平成21年11月 1日から 平成22年10月31日まで	第61期(前期) 平成20年11月 1日から 平成21年10月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,318	1,740
投資活動によるキャッシュ・フロー	72	△1,069
財務活動によるキャッシュ・フロー	△360	△351
現金及び現金同等物に係る換算差額	△92	△24
現金及び現金同等物の増加額	938	296
現金及び現金同等物の期首残高	11,033	10,737
現金及び現金同等物の期末残高	11,971	11,033

TOPICS

TOPICS 01

独創的かつ先駆的な研究開発が各学会で続々評価

当社の研究開発部門が、平成22年度に以下の3つの学会・会議で各賞を受賞いたしました。ひとえに長年にわたる研究成果が花開いた結果であり、さらなる事業拡大と企業成長の源泉であるといえるでしょう。各賞および概要は以下のとおりです。

第49回日本雑草学会：

「ビスピリバックナトリウム塩を選抜用試薬とする新規植物形質転換技術の開発」：雑草学会技術賞



ビスピリバックナトリウム塩（BS）と2点変異型ALS遺伝子の組合わせで遺伝子組換え植物を選抜する際に重要な役割を果たすPalSelect技術が中核となっており、その技術は雑草のALS遺伝子解析にも貢献していることが評価されました。

PalSelectとしては主にpSTARAタイプのベクターとBSをセットにして販売しており、植物形質転換を行っている国内の大学、国の研究機関、民間企業で活用されています。

第35回日本農薬学会：

「新規殺菌剤ベンチアバリカルブイソプロピルの開発」：農薬学会学会賞（業績賞）

世界的な重要病害であるべと病・疫病の防除薬剤を日本から世界に発信し、IPMにもマッチした優れた選択性と治療活性で世界の食糧生産に寄与したことが受賞理由です。今回は平成19年の「エコホープ」に続く受賞であり、同一メーカーが短期間に、しかも病害防除剤で連続受賞することは画期的とのことです。



第11回民間部門農林水産開発功績者表彰：

省力且つドリフト軽減が可能な新規製剤「豆つぶ剤」の開発と普及：農林水産技術会議会長賞



水稻生産現場で使いやすく、作業者への暴露や水田周辺へのドリフトを最小限に抑えた環境負荷の少ない農薬製剤を開発したことを高く評価されたことが受賞のポイントになりました。平成22年度の普及面積は7万5千haで、平成23年度はピリミスルファン剤をラインナップに加えるなどして、さらなる普及拡大に努めています。

TOPICS 02 アグロ・イノベーション2010に出展

11月24日から26日の3日間、幕張メッセでアグロ・イノベーション2010が開催されました。今回のテーマは「新たな農業ビジネスここにあり！」で、種苗、農作業軽減用品、農業・園芸生産技術、青果物の流通・加工・販売、情報システム、野菜と果物が一堂に展示されました。また、若者の就農を支援するイベントとして、全国農業青年クラブ連絡協議会と連携し、新しい野菜の開発や加工品の企画および流通や販売に関する講演が行われました。特別展示では、安定供給・安全性などで取組みがさかんな「植物工場」の最新技術が紹介されました。

当社もブース参加し、エコシリーズ、クリーンシリーズ、豆つぶ剤、微粒剤Fなどを前面に出した展示を行って環境負荷を低減する努力をアピールしつつ、一般来場者の興味を引きやすい切花鮮度保持剤花当番や平成23年度に上市するピリミスルファン剤の新規性を宣伝する展示を行いました。

会場には試験機関、農薬メーカー、農機メーカー、流通関係者、社会見学の高校生、就職活動中の学生などが見受けられましたが、意外と農協、農家の方々も多く、さまざまな深い質問や展示試験サンプル提供の依頼を受けました。会場には3日間で約28,000人もの入場者が訪れ当社ブースを訪れるお客様も予想より多く、あわただしい3日間を過ごしました。



TOPICS 03 龍野工場に微粒剤F製造設備が完成

10月13日に待望の微粒剤F製造設備が龍野工場に完成し、竣工式を開催しました。微粒剤Fは平成18年5月に施行されたポジティブリスト制に対応した、これまで有効な対策が得られなかったDL粉剤に替わるドリフトの少ない製剤です。

竣工式には社外より、農林水産省、社団法人日本植物防疫協会、全国農業協同組合連合会、報道各社、本工事に関連した関係業者をお招きし、社内からは鷲山専務、石原専務（当時）をはじめ、総務部、営業本部、研究開発部、生産資材部関係者が参列しました。



式は中臣印達神社により神事が厳かに執り行われた後、製剤技術研究所藤田室長より微粒剤Fに関するプレゼンテーションおよび微粒剤F製造に関わる設備の見学、最後に披露パーティーが盛大に行われました。

微粒剤Fの製造および販売は農業業界初であり、来賓の方々をはじめ関係各所からの期待の大きさが強く感じられました。当社は、今後も「省力化」と「環境負荷低減」を達成する農薬の開発と普及を通して、安定した食糧生産と環境保全、並びに「食」の安全・安心に貢献してまいります。

株式の状況

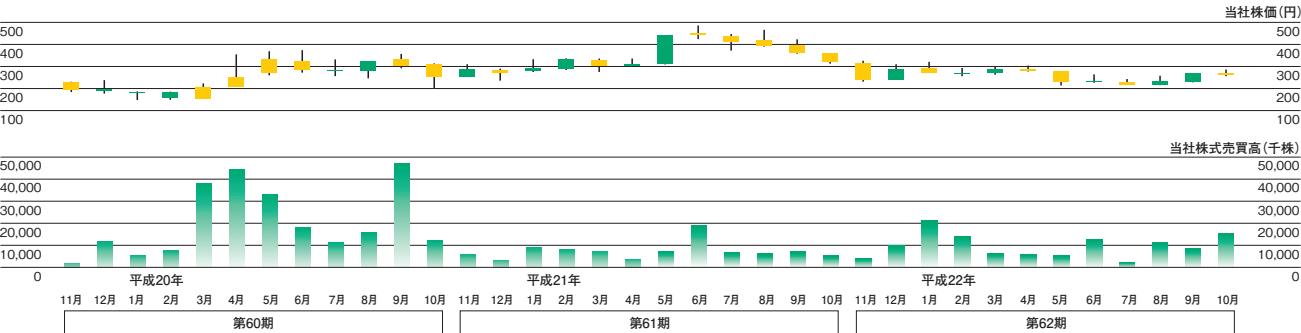
発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	86,977,709株
株主数	7,835名

大株主

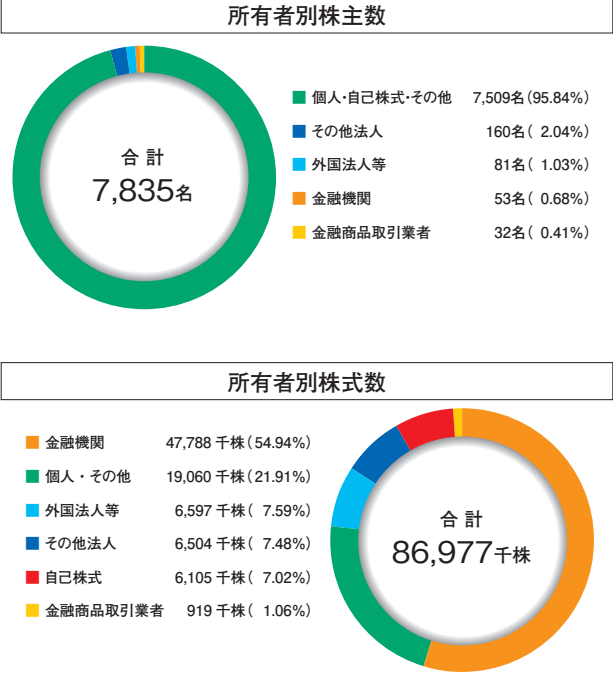
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
全国農業協同組合連合会	26,527	30.50
静岡県経済農業協同組合連合会	2,770	3.19
スルガ銀行株式会社	2,609	3.00
農林中央金庫	2,588	2.98
クレディスイスセキュリティーズ ヨーロッパリミテッドPBセクイント ノントリーティークライアント	2,206	2.54
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,634	1.88
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,509	1.73
イハラケミカル工業株式会社	1,457	1.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (三菱化学株式会社退職給付信託口)	1,267	1.46
イハラ建成工業株式会社	1,076	1.24

(注) 当社は自己株式6,105,101株(持株比率7.02%)を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

株価・売買高の推移



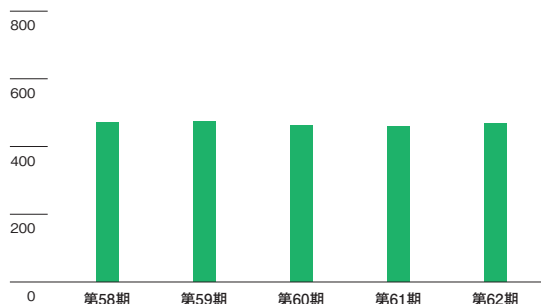
株式分布状況



STOCK INFORMATION / CORPORATE DATA

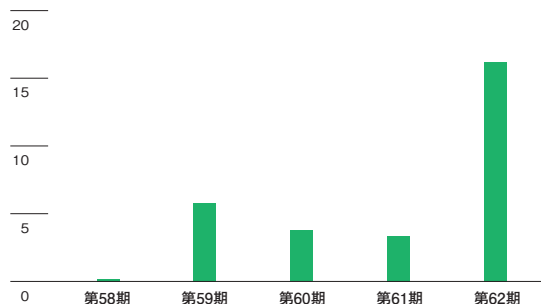
1株当たり純資産

(単位:円)



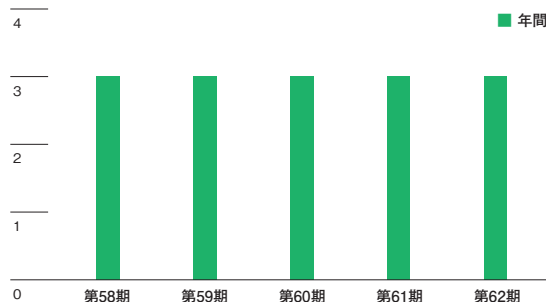
1株当たり当期純利益

(単位:円)



1株当たり配当金

(単位:円)



会社概要

会社名	クミアイ化学工業株式会社
設立年月日	昭和24年6月20日
資本金	4,534百万円
事業内容	殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの農薬の製造・販売
従業員数	351名
本社所在地	〒110-8782 東京都台東区池之端一丁目4番26号

取締役及び監査役

代表取締役 取締役社長	望月 信彦	取締役 取締役	小山崎 周二
代表取締役 専務取締役	鷲山 雄二	取締役 取締役	渋谷 潤太郎
代表取締役 専務取締役	石原 英助	取締役 取締役	鳥岡 照義
代表取締役 専務取締役	堀 貞直	取締役 取締役	鈴木 與平
代表取締役 専務取締役	大竹 丈夫	取締役 取締役	野村 喜八郎
代表取締役 専務取締役	清水 孝三	取締役 取締役	加藤 敦啓
取締役	安部 俊博	取締役 取締役	藤原 功志
取締役		取締役 取締役	大西 茂夫
		取締役 取締役	兼子 静夫
		取締役 取締役	前田 哲弘

(注) 常勤監査役藤原功志氏、監査役大西茂志氏及び監査役前田哲弘氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

連結子会社の概要

日本印刷工業株式会社 ※ 各種印刷物等の製造販売	静岡県静岡市駿河区 資本金88百万円	出資比率: 48.5%
株式会社クミカ物流 ※ 運送・倉庫業	静岡県静岡市清水区 資本金62百万円	出資比率: 52.9%
ケイアイ情報システム株式会社 ※ 情報サービス業	東京都台東区 資本金50百万円	出資比率: 50.0%
株式会社エコプロ・リサーチ ※ 環境中の化学物質等計量業	静岡県静岡市清水区 資本金45百万円	出資比率: 66.7%
尾道クミカ工業株式会社 ※ 農薬等の製造販売	広島県尾道市 資本金30百万円	出資比率: 100.0%
ケイ・アイ ケミカル U.S.A. ※ 農薬等の輸出入	米国ニューヨーク州 資本金2百万USDドル	出資比率: 50.0%
ケイ・アイ ケミカル ヨーロッパ ※ 農薬等の輸出入	ベルギー王国ブラッセル市 資本金70万ユーロ	出資比率: 50.0%

■ 株主メモ

事業年度 11月1日から翌年10月31日まで
 定時株主総会 毎年1月中
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 〒137-8081
 (郵送先) 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 証券代行部

基準日 定時株主総会については10月31日、その他必要
 があるときは、あらかじめ公告する一定の日
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL
<http://www.kumiai-chem.co.jp/>
 (但し、電子公告によることができない事故、そ
 の他やむを得ない事由が生じた時には、日本経
 済新聞に公告いたします。)

株式に関するお手続き等について

株券電子化への一斉移行により、株式事務のお取扱いが変更になりました。
 これに伴い、当社株式のお手続き窓口とお問合せ先は次のようになりました。

お手続き窓口及びお問合せ先

○ お取引の証券会社等に開設されている振替口座に預託されている当社株式に関する単元未満株式買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き ○ 上記の各お手続きに関するご照会	お取引口座を開設されている証券会社等にて お手続き又はお問合せをお願いします。
○ まだ受取っておられない配当金の受領に関するお手続き及びそのご照会 ○ 特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き ○ 株主名簿にご登録の配当金受取方法に関するご照会 ○ 株主様宛郵便物等の発送と返戻に関するご照会 ○ 特別口座に関する各お手続き及びそのご照会	【お手続き窓口】 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店の窓口 【お問合せ先】 三菱UFJ信託銀行株式会社 各種お問合せ 0120-232-711 各種手続用紙のご請求 0120-244-479 インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/



クミアイ化学工業株式会社

本社 東京都台東区池之端一丁目4番26号

※この事業報告書に関するお問合せは下記までお願いいたします。

総務部 03 (3822) 5036

U R L <http://www.kumiai-chem.co.jp/>

IR情報を当社ホームページで
 ご覧になれます。

ホームページアドレスは次のとおりです。

<http://www.kumiai-chem.co.jp/>



環境に配慮した
 「植物油インキ」を
 使用しています。